

2023年度（令和5年度）

学校法人 豊中キリスト教会学園

幼保連携型認定こども園 豊中愛光幼稚園

1. 教育方針

キリスト教精神に基づき教育・保育を行うこと。自由遊びと異年齢保育を通して自ら「考え、学び、創り出す」者となり、他者と共に生きる心を育む教育・保育を行うこと。その中で、主体性と社会性が生まれ、また体育活動を行うことで、心身ともに調和のとれたこどもに成長するよう願う。こどもを真ん中に置き、教育・保育をめざす。

2. 教育方針と目標を実現するための方法

1. キリスト教精神に触れ、神を愛し、人を愛し、自分を愛する心を持ったこどもに育てる。
2. 遊び込むことを大切にすることで個が育ち、自らが考えて決めることに喜びを感じ、主体性と創造性をもったこどもに成長するように導く。
3. 異年齢保育を進めることで、他人（ひと）とのつながりを楽しみ、人から学ぶ心を養う
4. きめ細かく配慮された環境作りを通して、乳幼児の成長と健康・安全を守る教育・保育を推進する。

3. 事業計画

社会変動に伴うさまざまな課題と急激な少子化が進んでいる。その中、キリスト教の精神を土台に一人ひとりのこどもたちを大切に教育・保育実践に取り組み、その質の向上に努めている。内容として、園の特徴である「キリスト教保育」、「異年齢保育」、「チーム協働」、「子育て支援」などの充実を図ることを念頭に5事業（1. 教職員の教育・保育力の向上、2. 教育・保育環境の整備と改善、3. 働きやすい職場環境の構築、4. 子育て支援事業の実施、5. 100周年事業計画の検討）に取り組んだ。

5事業の事業計画を以下のようにまとめる。

認定こども園豊中愛光幼稚園

2023年度事業計画

1. 教職員の教育・保育力の向上

さまざまな研修に積極的に参加できるよう機会を作る。特に、園外研修は、オンライン受講可能な研修も増えたため、積極的に参加するよう動機づけをする。

また、園内研修では、園の日常を振り返りから、一人ひとりのこどもの成長やこどもをとりまく環境についてなどの課題について対話し、キリスト教保育の実践の大切さを確認し合いながら教育・保育力向上に努める。

2. 教育・保育環境の改善

異年齢保育の充実を図る。ここ数年建物の経年劣化に伴う修繕や改善を図り、教育・保育の支障がでないように進めていく。また、昨今の能登半島地震などの災害を想定し、避難訓練等の実践的な対応をしていく。

3. 働きやすい職場環境の整備

育児休暇を取得する職員が増えるとともに、継続して働く意思のある職員が多いので、よりチーム内で互いの役割に対する意識と助け合い精神を醸成していく。また、成長課題が考えられる配慮を必要とするこどもたちの対応が増えきている。より一人ひとりの育ちに寄り添うために教職員体制の充実を図っていく。離職者を出さないように教職員組織を安定させるように傾注していく。さらに、実習生やアルバイト学生を積極的に受け入れるように努める必要がある。

4. 計画性を持った子育て支援の実現

園庭開放「ひよこ」、キンダーカウンセラー事業、子育て相談、2歳児親子教室「うさぎぐみ」の4事業を更に充実したものにしていく。また、P.T.A活動への協力と連携し、子育て支援のための講演会等の開催、卒園児支援「ひかりのこ」クラスを実施していく。

5. 100周年記念事業の検討

100周年事業計画を委員会の元、具体的な計画を実施していく。

4. 事業項目の達成度評価及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
1. 教職員の教育・保育力の向上	
教育・保育の充実を図る	<p>さまざまな研修に積極的に参加できるように努めた。園外研修は、コロナ禍以降オンライン受講可能な研修も増えたため、各保育教諭が教育・保育の現状や個々の課題となる学びをブラッシュアップする機会を持つことができた。また、園内研修では、園の日常を振り返りから、一人ひとりのこどもの成長やこどもをとりまく環境についてなど、課題について対話し、キリスト教保育の実践の大切さを確認し合いながら教育・保育力向上に努めた。</p>
1. 教育・保育環境の改善	
(1) 保育教諭の人員を確保し、余裕のある教育環境の充実を図る。	非常勤による保育教諭の確保に努めた。
(2) 異年齢保育の充実を図る	世代間交流による社会的経験の学びの大切さを考え、意欲的に教育・保育環境の工夫を行うように進めた。
(3) 安全管理	予想外の修繕や改善について、安全面を考慮して教育・保育の支障がでないように行った。
(4) 災害対応	昨今の能登半島地震などの災害を想定し、避難訓練等をさまざまな実践的対応を毎月実施した。
3. 働きやすい職場環境の整備	
教職員間のチーム連携と教職員採用の取り組み	<p>育児休暇を取得する職員が増え、継続して働く思いへつながっていることや新規採用職員も迎えることができた年であった。その中で、よりチーム内で互いの役割に対する意識と助け合いが必要となった。また、成長課題が考えられる配慮を必要とするこどもたちの対応が増えている。より一人ひとりの育ちに対応するために教職員体制の充実が必要と考え、非常勤職員の雇用を求めたが思うように整わない現状があった。デジタル化(ITC)を現場に即した形に変えて進めているが、教職員間で統一した運用共有が困難であった。</p>

4. 計画性を持った子育て支援の実現	
地域・社会で必要と求められているさまざまな支援の実施	P.T.A.活動やキンダーカウンセラーの実施は、「こどもを真ん中」においた園の教育・保育を実践する上で、大きな支えと役割を担っていた。また、コロナ禍で中止していた園庭開放や一時預かり保育の再開が実現した。
5. 100周年記念事業の検討	
委員会の活動	委員会メンバーを中心に事業の具体的な骨子となる事業計画の検討と準備を進めた。

5. 学校評価の具体的な目的や計画の総合的な評価結果

理 由
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍に見直された園行事の取り組みは、日ごろから園が大切にしている、一人ひとりの育ちを大切にすること、行事のための保育ではなく、日常のこどもの姿を見て、工夫すること環境を整えることで、こどもの成長がより育まれている。これからもこどもの豊かな育ちにつながる教育・保育計画を期待している。また、そのために今後も、保護者との直接的関係性の構築を丁寧に進めてほしい。 ・2024年は、創立100周年を迎える。それにあたり、次の100年の愛光物語が生み出されるためのあらたなチャレンジを、園の基本理念に基づいて進めていく。

6. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
1. 教育・保育の質の向上	教育・保育についての現状課題を対話と共有できるチーム構築の充実に努めること。また、100周年を迎える中で、園の精神的柱となるキリスト教保育の理解を推進する。
2. 教育・保育環境の改善	乳児クラスから幼児クラスへの接続や年長児の小学校への接続を見通すことができる異年齢保育の充実や教育・計画の立案の見直しを行う。また、安全性(災害含)における必要に応じた改善を進める。
3. 職場環境の整備	尊敬し合うよりよい関係構築を大切にする。また継続して教職員採用へ向けての取り組みを行うことで人員確保に努める。
4. 子育て支援の充実	地域や社会に求められている支援と園で実現可能な内容を新たな視点の中で精査しながら支援内容を検討し、安心して子育てを楽しめる環境の提供の実現を目指す。
5. 100周年事業の計画と実施	次の100年に向けての計画した事業について、日常を大切にしながら、ひとつずつ準備しお祝いを進める。

7. 学校関係者評価

・評価されているポイント

1. 園生活のさまざまな場面で、こどもの思いに寄り添って、ありのままで受け入れる先生方の姿勢が評価すべきことである。育児休暇取得する教職員も多く、教職員が喜んで働ける環境を継続して欲しい。
 2. 情報過多な環境下で育っていると思えるこどもたちは、ともすれば自分自身を見失いがちな時間を過ごしてしまう。園では、礼拝やお祈りの時間を通して、一時だけでも静寂の中で、畏敬の念を感じる時間が与えられ、こどもたちの心の育みの源になる安心感を生み出す時間となっていると感じる。この礼拝の時間は、キリスト教園ならではの貴重な経験といえる。
 3. 工夫を凝らした環境づくりの中で、異年齢で遊ぶ経験はこどもたちの育ち合いにつながっている。上のこどもが下のこどもたちの気持ちを理解し思いやりをもって接するように自然となってくる。この姿を見ることで、こどもたちが日々、成長しているという実感が湧いてくる。
 4. キンダーカウンセラーは、悩んだり、困ってからの相談場所ではなく、気軽に利用でき親自身が今の自分の悩みに気づいたり、親とこどもとの関わりなど客観的に考える時間になっていて、今後も続けて欲しい。
 5. 子育て支援として、数年前から始まった親子であそぼうやパパ講座が定着してきている。日常では、交われない保護者との出会いの時間があるのはうれしい。
- ・ 1号こどもの預かりは、園舎や園庭の規模も限られ、保育教員の職場環境を考えると受け入れることのできるこどもたちの人数に制限があり、いつでも利用可能ではない。ただ、子育て家庭の多様なライフスタイルに対応する受け入れ人数枠や日数を検討して欲しい。
 - ・ 日常的なコミュニケーション手段として園だよりや保護者会、個人懇談会、PTA 活動など直接的関係性を基本においている。特に、毎日の送り迎えの保護者との会話を最も重要視している。相互に温度差が生じないように今後も努力を積み重ねて欲しい。

8. 財務状況

2024年4月28日、公認会計士より適正に運営されていると認められた。